

APECエネルギー担当大臣会合議長への書簡

2012年5月24日

APECエネルギー担当大臣会合議長
ロシア連邦エネルギー大臣
Alexander Novak閣下

拝啓

ABACは、APECエネルギー担当大臣が域内のエネルギー安全保障の向上の実現に向けて成果を上げていることを高く評価いたします。中でも、浪費を助長する非効率な制度である化石燃料に対する補助金をAPEC参加国・地域が自主的に報告するシステムなど、市場を歪曲する政策への最近の取り組みは特に称賛に価すると考えております。

化石燃料への補助金制度を改革することは、化石燃料への依存度の緩和や、経済資源の効率的配分、水力・太陽光・風力・バイオマスなどのクリーンな再生可能エネルギーへの民間投資の促進などの観点から重要であります。自主的な報告制度の枠組みをAPEC内に設置したことは前向きな一歩であり、化石燃料への非効率な補助金を段階的に廃止・合理化する日程を固めることをエネルギー担当大臣に提言します。

エネルギー安全保障は地域にとって引き続き喫緊の課題であり、クロスボーダーのエネルギーの需給問題にタイムリーな対応をするためにはハイレベルの協力並びに定期的な情報交換が不可欠だと考えます。そこで、戦略的な長期のAPECエネルギー安全保障枠組みを協同で策定するために、エネルギー担当大臣会合と官民フォーラムの年次開催を表明することをAPECに提案します。この両者の協力による枠組みは、官民連携による革新に必要な明確な投資と規制の制度とあわせ、APECのエネルギー安全保障問題の克服に不可欠です。

ABACは、エネルギー安全保障については省エネの取組み強化、クリーンな再生可能エネルギーの推進、天然ガスの利用拡大、エネルギー生産性の向上、そして原子力の安全性向上への協力など多面的なアプローチにより、以下を推進することを支持します。

- 省エネ推進とエネルギー生産性向上のため、APECはベストプラクティスの共有を促進するとともに、計測や評価の基準を調和させ、関係者すべての利益を最大化するような技術移転を支援し、エネルギー集約度改善のため環境物品・サービス（EGS）の普及を促進する。
- クロスボーダーのエネルギー投資・取引の障壁緩和、炭素排出の少ない天然ガス利用を最大化するための新たな交通インフラと技術への投資、そして旧式で非効率な発電・工業施設の段階的廃止または改善を進める。

- 市場を歪曲する政策に対処することは、投資家の信頼向上とエネルギーの多様化に向けた重要な一歩となる。ABACは、効率のよい域内エネルギー貿易を支えるために、透明性が高く予見可能な法環境を基盤とした、公正で開かれた市場を創出することは無論のこと、クリーンで再生可能なエネルギーの生産コストを下げる可能性がある先進的研究にもさらなる注意を払わなければならない。
- EGSについては、APECの官僚が「グリーン成長及び持続可能な開発目標に対して直接的、積極的に貢献する」物品・サービスを特定する任務を全うするにあたり、できるだけ包括的であるよう要望する。
- 暮らしやすい低炭素社会や“リビング シティ”などの概念を取り入れて、都市が開発・再開発される場合、統合された社会・環境・経済の諸指針が基盤となるものである。“リビング シティ”は、スマート技術を駆使して省エネを推進し、グリーンビルディングの建設を支援し、都市の炭素排出量を軽減し、省エネの国民意識を高めるものである。ABACは、“リビング シティ”の原則を積極的に活用していくこと、ならびにその目的を達成するモデルプロジェクトを推進していくことを支持する。
- 非在来型のガスは、特に再生可能エネルギーへの過渡期の燃料として、今後各国・地域のエネルギーミックスに果たす役割が拡大するであろう。我々は、資源の安全な探査、評価、生産の拡大に向けてエネルギー担当大臣とともに努力することを約する。

2012年にABACは、昨年の大臣宛提言を改めて確認するとともに、エネルギー担当大臣にはこれらを前向きに推進するよう要望します。

来る6月にサンクトペテルブルクで開催されるAPECエネルギー担当大臣会合で上記事項につき議論を深め、エネルギーイニシアチブの進捗状況を共有できることを期待しております。

敬具

2012年ABAC議長
Ziyavudin Magomedov